



# 平塚ロータリークラブ 週報

Hiratsuka R.C. Weekly



1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

会長：清水 裕 副会長：柏手 茂 幹事：森 誠司 クラブ会報委員長：瀬尾 光俊

例会日 毎週木曜日 12:15～13:30

会場 ブランドホテル神奈中 2F

事務局 平塚市松風町 2-10 平塚商工会議所内

連絡先 0463-23-5955 (事務局)

2019年 9月19日 第 3224 回 週報第 3224 号

本日 9月19日	会員数 63名	対象者 61名	出席者 34(32)名	出席率 53.97%			
前々回 9月5日	会員数 63名	対象者 61名	出席者 39(38)名	出席率 61.29%	MUP 4名	計 42名	修正率 67.74%

## 本日の卓話者ご紹介

田園調布学園大学 人間福祉学部  
講師 江島尚俊様



## 卓話

### 「令和時代の家族を考える」

田園調布学園大学 人間福祉学部  
講師 江島尚俊

#### 1. 昭和から平成—家族規模縮小という時代

みなさんは、「サザエさん」「ちびまる子ちゃん」「あたしんち」「クレヨンしんちゃん」というアニメをご存知だろうか。この4つはともに家族の喜怒哀楽、悲喜こもごもを描いた作品として親しまれているが、前者2つと後者2つには大きな違いがある。前者2つは昭和時代の古き良き家族を描き、後者2つは平成時代の家族を描いている。前者では三世帯・持ち家で住んでいるが、後者ではローン購入の住居・核家族で住んでいる。無論、これは現実の日本社会の変化を如実に反映している。

#### 2. 戦後復興は産業構造の強制変化によって

よくよく考えるに家族規模の縮小は自然な流れではなかった。戦後日本が産業立国化を推進した結果、農業や漁業、林業といった第一次産業から工業、サービス業などへの第二次、第三次産業への移行したためである。そもそも第一次産業の社会においては、家族・血縁が中心となって集団での就業が前提とされていた。だから家族規模は大きかった。しかし、第二次・第三次産業の社会

においては家族・血縁の就業は前提にはしない。重要なのは個人という労働者であって、その個人が大規模の家族で生活する必要はなかった。そして、産業立国化は基本的に都市部を中心に実施されたため、地方から都市部への人口移動が活発化していった。

#### 3. 産業立国日本の限界と家族の弱体化

その結果として日本は、産業立国化を早々に成功し1980年代後半にはジャパン・アズ・ナンバーワンと言われるまでの経済成功をおさめた。ただし、1970年代には日本の産業立国化のプロセスは発展途上国の教科書となっていた。その結果、1990年代には新興の産業立国が世界各地に台頭してきた。2000年頃にはその代表格として、BRICS（ブラジル、ロシア、インド、中国、南アフリカ）が総称されたのは記憶に新しい。バブルが弾けたあとの日本は経済低迷に苦しみ、社会全体としては経済格差が広がった。より実態に近いとされる中央値で年収を考えると、1990年では388万円だったのが2016年では359万円と30万円近く下がってしまった。また、2人以上の勤労世帯の可処分所得（≒趣味や食費など比較的に自由に使えるお金）は、1996年と2016年で月額7万円ほど下落している。このようななか、私たちは人間生活の原理であり、基盤である家族をどのように維持していけばよいのだろうか。

#### 4. 「家族とは何か？」から考える。

不登校や引きこもり支援を専門としている立命館大学教授の団士郎氏は、『家族力×相談力』という著作のなかで、家庭問題を抱える家族に共通した傾向が見られるとしている。それは、当事者である家族たちの空虚さである。「なんで、うちには引きこもりの子どもがいるんだろう。」「なんでこんな家族になってしまったんだろう。」という原因ばかり（WHY）を考え、「どんな家族にしたいのか」「どんな家族になりたいのか」という目標（HOW）を全く抱いていないというのである。昭和から平成へ、個人重視の時代を経験し、家族規模の縮小ならびに家族維持の困難な時代を生きている我々日本人にとって、家族とはもはや自明の、当たり前のことではなくなっているのかもしれない私は考えている。どのような家族のなかで生きていきたいのか、それぞれが考えなければならぬ極めて重要な時期が来ている。先にも述べたように、家族とは人間生活の、最初の、そして最後の砦なのだから。

卓話者ご紹介

江島尚俊（えじまなおとし）様

昭和 52 年生まれ。平塚市下島の靈山寺住職、3 児の父。法務のかたわら立教大学や立正大学などで宗教学や倫理学、社会学などの講義を担当。関心は「便利な世の中になっているはずなのに、なぜ人は不幸を感じてしまうのか」について。生きるこの意味や意義を、宗教や倫理をベースにして再考している。



幹事報告

◎第54回神奈川県ロータリアン親睦テニス会のご案内  
 日時:2019年11月12日(火) 9:30集合  
 テニス会場:湘南ローンテニスクラブ(茅ヶ崎市香川)  
 参加料:ロータリアン7,000円 家族・ゲスト5,000円  
 テニス終了後に“MOKICHI”にてパーティーがあります。  
 パーティーのみの参加も歓迎です。  
 参加ご希望の方は10月31日(木)までに事務局までご連絡ください。

◎9月21日(土) 13:30よりアイクロス湘南にて、第5回インターアクト委員会が開催されます。  
 青山インターアクト委員長が出席されます。

◎北九州地方で起きた豪雨による被災地に対し、皆様よりの義援金は9月5日33,000円9月12日18,000円、合計51,000円となりました。  
 本日まで受け付けますので、例会場受付の募金箱にお願ひ致します。ご協力ありがとうございます。

◎19-20年度ロータリー財団、米山記念奨学会特別寄付のお申込みの回答を未提出の会員は事務局まで早めにご提出お願いいたします。



今後の卓話予定をお知らせする  
 関口プログラム副委員長



本日の卓話者のご紹介をする  
 三荒プログラム委員長

委員会報告

・プログラム委員会 関口幸恵副委員長

9/26は新入会員記念卓話です。今回は野村証券の横山鉄生会員です。まずは横山さんが10分ほど話され、その後何と野村証券の新入社員が平塚についての調査をされたそうで、そのご報告して頂けるそうです。  
 10/3は夜間例会でアトランタオリンピック野球のキャプテンをされた中村大伸様にお越し頂きます。皆様には毎回例会で何か一つでもお持ち帰りして頂きますよう宜しくお願いします。



今月の奨学金の受け取られる  
 丁煥哲君



誕生日祝いの  
 江藤副幹事

メークアップ (MUP) 4名

浅野会員、杉山会員、常盤会員、鳥山会員

本日のスマイル 8名

ゲスト 2名

田園調布学園大学 人間福祉学部 講師  
 江島尚俊(えじま なおとし)様

米山奨学生 丁煥哲(てい かんてつ)さん

ビジター 1名

平塚湘南ロータリークラブ 高橋烈雄様

卓話・行事予定

- 9月26日(木) 入会記念卓話 横山鉄生会員
- 10月 3日(木) 夜間例会 アトランタオリンピック  
 野球チームキャプテン中村大伸様
- 10月10日(木) 米山奨学生 丁煥哲さん

市内例会変更 現在ございません。

